

第10回海老名市公共施設再編計画策定委員会次第

日 時：平成29年1月12日（木）

午前11時から

場 所：海老名市役所 政策審議室

1 開 会

2 答 申

海老名市公共施設再編（適正化）計画【素案】の答申

3 報 告

「海老名市学校施設再整備計画」策定の基本的な考え方について

4 その他

5 閉 会

平成29年1月12日

海老名市長 内野 優 殿

海老名市公共施設再編計画策定委員会
委員長 藤田 由紀子

海老名市公共施設再編（適正化）計画の素案について（答申）

平成28年11月10日付で諮問のありました標記の件について、
本委員会における審議の結果、下記のとおり答申します。

記

本件について、内容は妥当と判断します。なお、以下の項目を意見として申し添えます。

- 1 基本方針では、公共施設の抑制、削減の考え方が強く前面に出ているため、福祉や子育てなどの新たな市民ニーズに対応した新規施設の整備については対応しないような印象を受ける。これでは、海老名に「住みたい、住み続けたい」気持ちが削がれるような内容に感じる。必要なものは整備し、ニーズが低いものを縮小・廃止するという方針であれば、単に公共施設の床面積を減らすだけでなく、ニーズが増加する部分の対応については、市民サービスの水準を確保し日常生活を担保していくという姿勢を明示し、将来の市民生活に希望が持てる表現にされたい。

- 2 市民利用施設の整備・維持管理の「考え方」では、市民の日常生活を支えながら公共施設の合理的抑制をしていくための市独自の知恵や工夫が読み取りにくい。将来を見据え、公共施設相互の時間軸に沿った関係性や方向性を示して、市民ニーズに配慮しながらストックを再編し、利活用も視野に入れた配置を行うプロセスやストーリーを整理されたい。
- 3 再編（適正化）により長期的にみた施設の保有総量を現状より20%程度抑制することとしているが、市民の理解を深めるためにも、計画で示された統廃合や多機能化を行うことによる将来費用の削減効果額も示されたい。
- 4 公共施設再編においては、最適な配置と効率的な運営に取り組むことが求められていることから、文化会館やスポーツ施設などの広域的なサービスの提供が可能な施設については、他自治体と連携し広域的な統廃合等を図ることが必要である。そうした可能性についても検討し取り組んでいただきたい。
- 5 素案の文章中に PPP や PDCA サイクルのような表記がされているが、市民から見れば難しい言葉である。市民が見やすい計画とするためにも分かりやすい表現にするとともに、難しい言葉を使う場合には、用語の説明を入れていただきたい。
- 6 本計画は市内全域の公共施設の再配置を検討しているにもかかわらず、公共施設白書における地域区分図は、必ずしも市民の生活圏を反映しているものではない。地域区分図は市民の生活圏の区域ではないことを明記するなどの工夫をされたい。

「海老名市学校施設再整備計画」策定の基本的な考え方

1. 「計画策定」の基本的な考え方(コンセプト)

「持続可能」で「夢」のある計画

○学校施設の再整備を通し、本市の「持続可能」な行財政運営を可能にするとともに、「今」と「未来」のえびなの子どもたちに「夢」を与えることができる計画を策定します。

2. 現状と課題

○第二次ベビーブーム以降の児童・生徒数の急増に伴い、本市では、昭和40年～50年代後半に学校施設が一斉に整備されました。

このため、築年数が30年を超える施設が全体の約8割を占めるなど、施設全体の老朽化が進み、その対策が喫緊の課題となっています。

さらに、出生率の低下等から、将来の人口減少が予測される中、健全な行財政維持のためにも、公共施設の再整備が求められています。

3. 計画策定のポイント

○上記課題を解決し、『「持続可能」で「夢」のある計画』を策定するため、次の3つのポイントを踏まえ、「短期・中長期・超長期」の視点から作業を進めてまいります。

(1)長寿命化

○校舎や屋外運動場等の学校施設整備（建築、電気設備、機械設備）を計画的に行うことで、「良好な環境」を維持すると共に「施設の長寿命化」を進め、建設・整備コストの縮減を図ります。

(2)再編成

○児童・生徒数の推移や他の公共施設の機能を踏まえ、小中学校及び他の公共施設の再編を行うことで、「小中一貫教育の推進」や「施設の効率化」を図ります。

(3)地域に愛される学校づくり

○従前の学校施設の枠にとらわれず、児童・生徒はもちろんのこと、地域住民（幼児から高齢者まで）の利用を考慮し、学校を地域コミュニティの核とすべく、「多機能化」・「複合化」を進め、地域に愛される施設としていきます。